

V International Rhythmic Gymnastics Tournament

“Prize of Julieta Shishmanova” FIG 【2 日目】

大会 2 日目は、シニア・ジュニアともに種目別決勝(フープ・ボール・クラブ・リボン)が行われた。

【ジュニア個人：大塚月愛】

《フープ》 得点：17.800 (DB3.3 /DA2.3 /A6.35/E6.3/P0.6)

前半は初日よりも落ち着いており、伸びやかさの見える演技であったが、3 つ目の R で投げが真上に上がっているにも関わらず、シェネで前に進むという判断ミスをしてしまい、取り損ね、場外まで転がってしまい、2 つの DB と 1 つの DA が抜け、大きなミスとなってしまった。

《ボール》

得点：21.050 (DB4.5/DA2.3/A7.5/E6.75)

前半は大きなミスはなかったが、パンシェバランスや転がしの DA などの精度が低く、実施減点を伴うものであった。後半の大反りジャンプから空中下の DA で距離感を読み切れず落下、そこで曲に遅れ、ステップも始めが欠ける形となった。予選よりもミスは抑えることができたが、ひとつひとつの質は本来もっと良いものが出せるためもったいない演技であった。

《クラブ》

得点：21.850 (DB4.3 /DA2.7 /A7.65 /E7.2)

初日にミスのあった R は修正することができ、中盤までは落ち着いてエネルギーのある動きを見せることが出来ていた。2 つめの R はアジアジュニアが終わってから新しく挑戦をしていた手以外・視野外キャッチに挑戦をしたが、わずかに押さえられずその場で落下となってしまった。最後の R は 3 回前転をしっかりときめることができ、アジアジュニアよりもレベルアップしたないようを見せることができた。

《リボン》

得点：21.150 (DB5.1/DA2.0 /A7.45 /E6.9)

昨日よりもひとつひとつに対する粘りがあり、技の精度に改善が見られた。ブーメランの受けで対処したことでお手つきをしてしまったが、それでも取り切るといふ意地が見えた。まだまだ動きやリボンのかきのクオリティーは上げられる状態であるため、完成した時の演技に期待したい。

【ジュニア個人：五十嵐杏】

《フープ》

得点：22.850 (DB 5.2/DA2.5 /A7.35/E7.8)

スタートから良い表情で踊り始め、初日にミスのあった R も修正をし、全体を通して彼女の伸びやかでハツラツとしたエネルギーの伝わる演技であった。初日よりも DB のクオリティーも良く、質にこだわろうとしている意識も終始見えた。

《ボール》

得点：23.400 (DB 5.0/DA2.9 /A7.7/E7.8)

初日は出来なかったスタートの突き返し DA も決まり、本人も流れに乗り、気持ちよく踊っている様子が全身から伝わってきた。後半の R の受けの価値も全て入れ切ることができ、挑戦しようという意志の見える演技であった。

《クラブ》

得点：20.050 (DB 5.1/DA2.3 /A7.05/E5.6)

スタートの DA で落下があり、その後は立て直そうとエネルギーをしっかりと出しながら踊ることが出来ていたが、1 つ目の R 後にクラブへの意識が弱くなり、2 本とも落下をしてしまった。そこからどこか冷静さが足りない状態となり、DA や R でミスが続いてしまった。

《リボン》

得点：23.000 (DB5.6/DA2.1 /A7.8/E7.5)

クラブから短時間の中で切り替えをし、リボンは最後まで落ち着いた演技を見せた。R は 1 つが -0.1 となったが、2 つは全ての価値を入れ込むことが出来た。4 種目共通の課題ではあるが、まだフェットターンが安定していないため、安定することでさらに DB の点数を伸ばしていけるだろう。

【シニア個人：大野楓葵】

《フープ》

得点：25.650 (DB 6.8/DA3.7/A7.55/E7.6)

後半のバランスやジャンプが少し甘い実施となってしまったが、全体を通しては R の受けもしっかりと入れ切り、次々と繰り広げられる高難度の技を確実に決めていった。DB をきっちりやり切ることが出来れば、DB の得点アップが期待できるだろう。

《ボール》

得点：20.950 (DB4.7/DA3.4/A6.95/E5.9)

前半は落ち着いて縁起出来ており、R や突き返しの DA をしっかりと決めることが出来ていたが、中盤の座の転がしで落下をしてしまったところでリズムが崩れ、後半の R2 つで落下、場外という大きなミスとなってしまった。

《クラブ》

得点：24.550 (DB 6.8/DA3.0 /A7.4/E7.35)

スタートのエカルテターンは流れてしまったが、ボールのミスから切り替え、軽快な曲のリズムに合わせて、技ひとつひとつに集中しておどることが出来ていた。しかし、後半の大反りジャンプのフォームが崩れたことで受けに体の準備が間に合わず、落下となってしまった。その後引きずらずに最後までやり切れたことは 1 つ評価に値する。

《リボン》

得点：24.050 (DB5.5/DA3.5 /A7.55/E7.5)

1 つ目の R で体の反応が遅れ、布を受けてしまい R がノーカウントとなってしまったが、その後はすぐに切り替えることは出来ていた。全体を通してリボンが体に近くなってしまい、3 つ目の R は腕に軽く絡まってしまったことで R が成立しなかったがすぐに引き戻しミスを防いだことは、彼女の瞬時に対処する力が見える瞬間であった。

【シニア個人：井上結愛】

《フープ》

得点：21.150 (DB 4.6/DA2.7 /A7.2 /E6.95/P0.3)

前半から中盤にかけては、初日より DB のクオリティーも良く、ひとつひとつ粘れている印象があった。しかし、後半の 3 つ目の R で、手以外視野外でのキャッチのためより最後まで手具を見ておく必要があるが、取る瞬間に視線が早くなってしまい惜しくも落下となってしまった。

《ボール》

得点：21.000 (DB4.4/DA2.7/A7.05/E6.85)

初日にミスにあった座の転がしは修正をし、落ち着いてやろうという姿勢は見たが、2つ目の R で手具との距離感を誤り、落下となってしまった。その影響で次の MG バランスを抜いてしまった。0.6 の高難度であるため、なんとしてでもやり切るという粘りが今後必要となってくる。

《クラブ》

得点：20.950 (DB 4.1/DA3.0 /A7.3 /E6.55)

前半は、体全身を大きく使い、落ち着いて実施することが出来ていたが、後半に入ったあたりから体が突っ込み始め、バランスやピボットが流れており、3つ目の R も体が流れてしまったことで軌道が崩れ、その場で落下。最後の R もあと少しであったが、わずかに間に合わずクラブを押さえきることが出来なかった。

《リボン》

得点：21.000 (DB4.4 /DA2.6 /A6.9 /E7.1)

スタートの R は投げが真上に上がり、回転不足となりノーカウント。その後は初日よりもリボンに力強さがあり、かきの DA や DB を改善しようという意識の伝わる演技だった。ただ、DA や DB には課題があるため、課題を修正し、完成度を高めてほしい。

今大会は、ジュニア・シニアともに1日4種目を約1時間で行う非常にタイトなスケジュールで実施され、国内では経験する機会の少ない競技形式の中で、体力面・精神面ともに大きな経験を積むことができた。

また、ロシアナショナル選手をはじめとする世界トップレベルの選手と同じ場で競技することで、難度一つひとつの質、手具操作の精度、身体表現、動きの力強さなど、世界基準を間近で感じる貴重な機会となった。

競技成績としては、日本選手団として計7個のメダルを獲得し、一定の成果を収めることができた。一方で、高難度に積極的に挑戦する中で、R や DB・DA の成功率、演技終盤の安定性には課題も見られた。

今後は、今回得た経験と課題を日頃の練習に生かし、難度を確実に得点へ結び付ける実施力と、国際大会で安定して力を発揮できる競技力の向上に取り組んでいきたい。